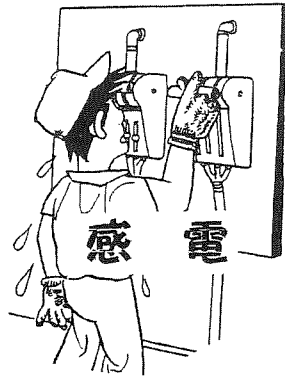


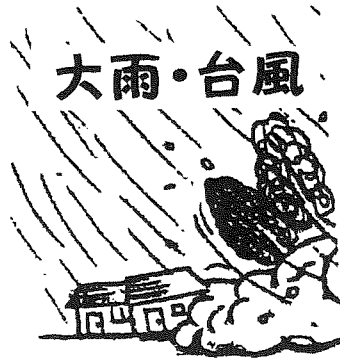
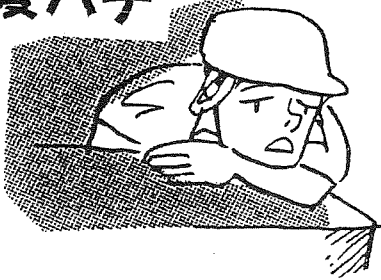
8月の安全・衛生・防災管理・活動

— 職場の安全を確保し、健康に夏を乗り切ろう —



エラー・不注意

夏バテ



昨年の夏の平均気温は平年差+1・7℃と統計史上最も高くなり、また9月に入っても高温が続き、多くの地域で真夏日や猛暑日数を更新しました。今年の夏もラニーニャ現象の影響で平均を上回る暑さになると言われています。次のような対策で労働災害のリスクを下げ、職場全員の健康を守りましょう。

●熱中症に注意 適切な水分補給と休憩をとりましょう。特に高齢者や体調不良者には特段の注意を。

●作業行動に注意 心身の疲れ・不調等で「うっかりミス」が。指差し呼称等で安全の確認を。
●ヤケドや薬湯に注意 猛暑でも自身の安全を守るため、必要な保護具や保護衣は正しく着装を。

●感電事故・災害に注意 電気設備の絶縁劣化や、人体も汗などで感電しやすくなっている。
●危険・有害なガスや蒸気に注意 高温で漏洩したり発散しやすい。特に高圧ガスの保管や取り扱いには厳重注意。

●健康管理に注意 良い睡眠、バランスの良い食事、適度な運動を。食中毒には厳重注意。

●機械や設備に注意 潤滑油や冷却関係でトラブルが発生しやすい。点検・整備の徹底を。

●冷房に注意 極端な温度差は自律神経への負担に。こまめな温湿度管理を。

●台風・地震等の自然災害に注意 線状降水帯の発生も増加。地震・豪雨対策の備えを万全に。

事務所内の5Sとリスクアセスメントを

— 安全な職場づくりも事務所から —

整理

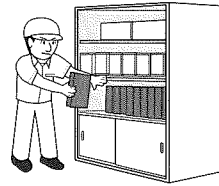


いらぬものは捨てましょう!

職場の 5S

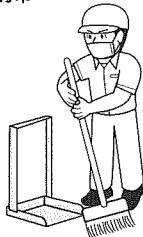
Seiri
Seiton
Seisou
Seiketsu
Shitsuke

整頓



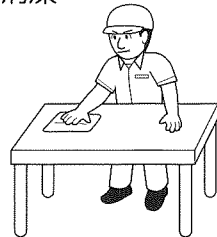
必要なものがすぐに取り出せるようにしましょう!

清掃



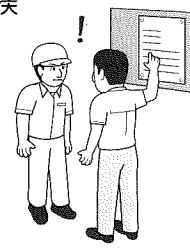
身の回りを掃除しましょう!

清潔



キレイな状態を保ちましょう!

躰



ルールを守りましょう!

職場の5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)は、働く人が安心して効率的に働ける職場づくりのための第一歩です。そして、リスクアセスメントは自らが職場内の事故の危険性を見つけ、対策を立て事故のない職場づくりをしていくための取り組みです。

作業場や通路等だけではなく、事務所内の5S、リスクアセスメントはどうか。

5Sが不十分だとこんな問題が

○書類や道具を探す時間が余分に発生し、焦りや作業ミスにつながってしまう。

○不要な物が残っており、ロッカーや棚の場所をとってしまう。

○動線に物があり、スムーズに移動ができない。

○冷蔵庫に長期間入っている食品、なかには賞味期限切れの食品・飲料も。整理もされず食中毒が発生しやすい状態に。

こんな状況をリスクアセスメントで安全に

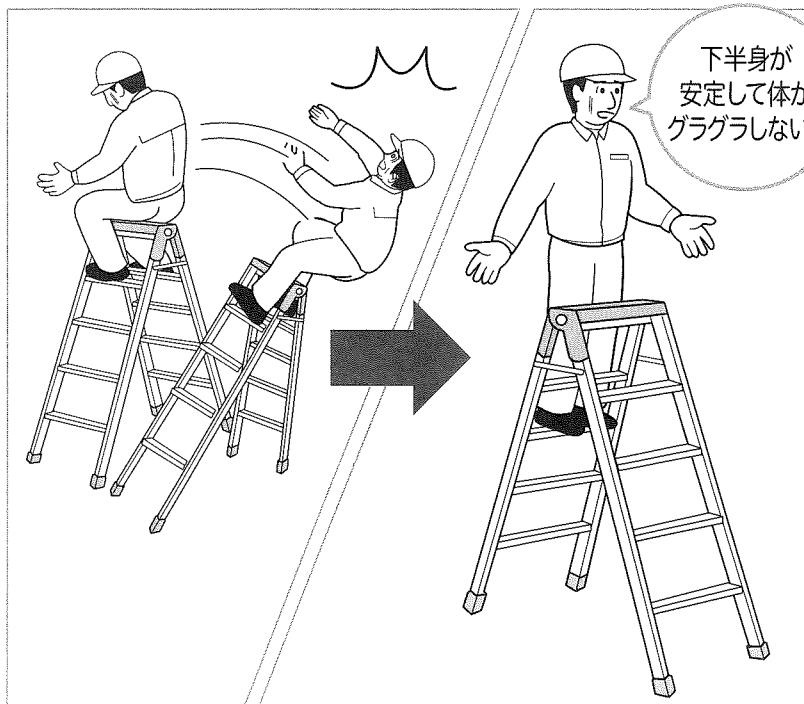
○ロッカーの上に荷物があり、地震等の揺れで落下してケガにつながってしまう。

○ガスコンロの設置場所が壁のそばにある。周りに引火しそうな紙や布がぶら下がっている。
○椅子の背もたれに不具合があり、座りづらいなど。

事務所内の事故や災害も多発しています。より安全で働きやすい労働環境づくりのために、職場の5Sとリスクアセスメントを実施・継続していきましょう。

脚立作業 正しく使って安全に

—— 転落・転倒の事故や災害が頻発 ——



職場や家事などで脚立を使用していて、転落や転倒などでヒヤリとしたり、実際にケガなどをしたことのある人は多いようです。脚立は多くの職場の多くの作業で使用されています。そして、脚立やハシゴを使用している「転落・墜落・転倒」等による休業4日以上

の死傷災害は毎年約5千件にも及び、危険作業の一つに数えられています。

脚立を使用する際は、次の安全ルールを守って行うことが肝要です。

1 使用前に脚立の点検を実施する
① 支柱や踏みさんに、欠損や曲がりなどはないか

② 踏みさんに油などの汚れはないか

③ 滑り止めが擦り減ったり、外れていないか

2 脚立は滑りにくい安定した場所に設置する
3 出入り口やドアの前では使用しない。使用する場合は、ドアをロックするか表示をする

4 作業で使用する際は、昇降面を作業方向に向けて脚立を設置する

5 脚立の開き止め金具は必ずロックする

6 保護帽を正しく着用する

7 天板の上に立つ、座る、またがるのは危険

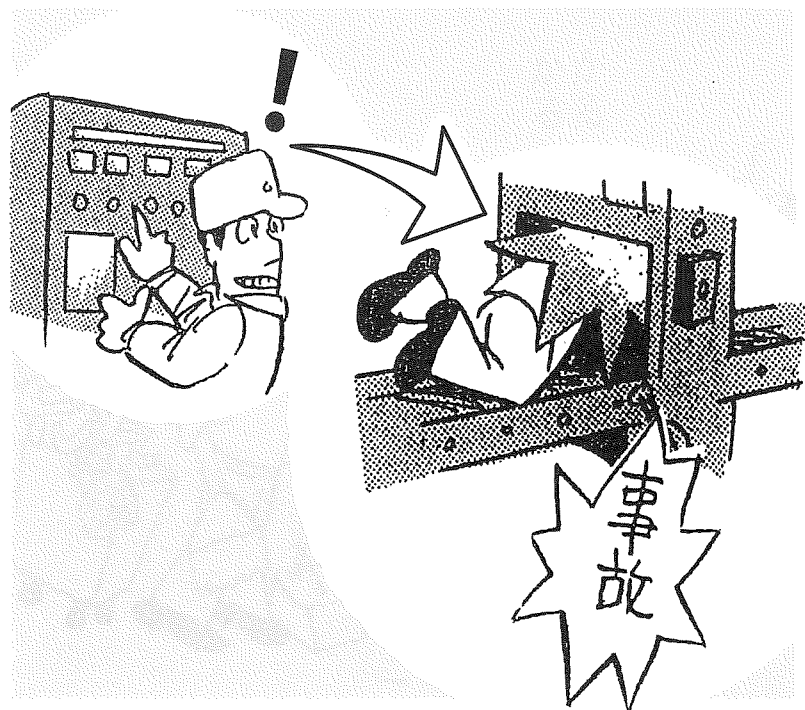
8 天板から2段目より下に立って作業を行う

9 踏みさんの上などでつま先立ちをしない

10 脚立で作業中に身を乗り出すのは危険。こまめに脚立を安全な位置に移動する、など。

要注意 スイッチ類の誤操作・誤作動

—ひと呼吸おいて「指差し呼称」で操作を—



職場で設備や機械などに電源を入れて起動する際、次のような誤操作をしてヒヤリとした事はありませんか？

実際に次のような事故や災害の例が報告されています。

▼並んでいるスイッチを押し間違えて、修理中の機械が動き出し、修理作業者が大ケガ。

▼クレーンで吊り荷作業中、ペンダントスイッチを押し間違えて、玉掛けを行っていた同僚が荷の下敷きになって死亡。

▼湯沸かし場の狭い通路で梱包作業中、体の一部が電気コンロのスイッチに触れ、コンロの上の可燃物に着火して火災。

▼段ボールの組み立て機械の点検中、体の一部がリミットスイッチに触れて機械が動き出し、頭部を挟まれて死亡。

▼「スイッチを切つてから」と「スイッチを切つたから」の言葉を聞き違えて感電死亡。

私たちは、間違えるはずはないと思っただけでも勘違いや錯覚などつい誤った行動をとるものです。特に仕事の多忙時などでは要注意です。誤操作で事故や災害を招く恐れがあるスイッチ等については、誤操作が出来ない構造とするなどの対策や、修理などの際は元スイッチを切り施錠等を行う、などの対策が必要です。

また、スイッチの操作はひと呼吸置いて「指差し呼称」で確認するなど徹底することが肝要です。